



# 砺波総合病院から

病院のホームページもご覧ください。

市立砺波総合病院 ☎32-3320

## DMATが

## やっついでる!!

集中治療・災害医療部

DMATって言葉を聞いたことありますか？

DMATとは「災害急性期(※1)に活動できる機動性を持ちトレーニングを受けた医療チーム」と定義され、災害派遣医療チーム「Disaster Medical Assistance Team」の頭文字を略してDMAT(ディーマット)と呼ばれています。東日本大震災や熊本地震、記憶に新しい大阪府北部地震においても



災害訓練の様子

DMATが派遣され災害対応を行ったほか、最近ではテレビドラマでも取り上げられることもあり世の中の認識も徐々に高まっているのではないだろうか。

DMATは、どの医療機関にも存在する医療チームではありません。都道府県が指定する災害拠点病院に対し、DMATを保有し派遣体制にあることを義務付けています。富山県においては当院を含めた8施設の医療機関が災害拠点病院に指定されており、平成30年8月末で計22チーム、砺波総合病院としては3チームを編成可能な(医師4名、看護師6名、業務調整員6名)DMAT隊員が所属しており、院内の災害対応体制の整備のほか、病院訓練の実施や、国・県・市の災害訓練に参加することで個々の技能維持に努めています。

### 中部ブロックDMAT実動訓練(平成30年10月13日実施)

富山県DMATは中部ブロックに所属し、毎年、各県の持ち回りで大規模な実動訓練を行っています。平成30年度は富山県が主催し「砺波平野断層帯東部を震源とするM7.0の地震が発生した」という想定で実際に予測される被害を基にDMATと

して「どのような災害対応が必要になるか!」という観点から訓練が行われます。

県内の各医療圏においても災害拠点病院が中心となり訓練内容を考え、砺波医療圏では「災害発生後4日目としてDMATが撤収し、医療救護体制へ移行する亜急性期(※2)の時期を想定した訓練」を実施します。

### 熊本での救護活動から地域の活動を想定する!

熊本地震で当院所属のDMATチームは医療救護班として南阿蘇村へ派遣され、医療救護体制の撤収に目途をつけるという時期に活動を行いました。当時の南阿蘇村は熊本市内へ繋がる道路に架かる橋が崩落、結果的に大きな交通障害が生じ「陸の孤島」と化していたため、地元へ従来の医療体制へ引き継ぐための調整が大変難しかったことが思い出されます。

砺波医療圏においても訓練で想定するような大地震が起きると、南阿蘇と同じような状況に陥る可能性があります。そのような状況において、当院が自力で病院機能を継続させ、多数傷病者を受入れ、入院患者さんの命を守り続けるということは非常に困難であり、DMATの支



熊本地震への支援に感謝するためくまモン来院後方列が砺波総合病院等の医療救護班

援が必要になると予想されます。

今回の訓練では、実際に多くのDMATが砺波総合病院へ参集し、当院をはじめとする近隣病院への支援や避難所への支援が行われます。

当院は砺波医療圏唯一の災害拠点病院として有事の際は関係機関(行政、厚生センター、消防、警察、自衛隊等)と連携をとりながら砺波医療圏の医療を守る責務があります。今回の訓練が砺波医療圏の災害医療対応能力の向上に繋がることが期待されます。

※1 災害急性期とは…発災初期のこと。  
※2 亜急性期とは…急性期の段階を過ぎて現状が安定しはじめた状態のこと。